

【（公財）東京都医学総合研究所】の活用戦略を踏まえた課題と今後の方向性

活用戦略で定めた「団体の将来像」

都民の生命と健康を守る国内トップレベルの医学研究所

重要課題 ①

様々な疾病の予防・診断や治療法の開発に向けて医学研究が果たす役割が大きくなる中、がんや感染症、神経疾患、精神疾患などの予防や治療等に対する都民ニーズや都政課題に対応した研究をどのように充実させていくか

検討の状況や今後の方向性

- 都医学研は、卓越した研究者達が集い、その叡智をもって学術的・文化的に栄誉ある地位を築くことで、世界に冠たる大都市東京の文化の象徴になることを目指している。
- 学術研究は、トップダウン的な出口志向型の応用研究（直ぐに役に立つ研究）とボトムアップ的な未来を見据えた基礎研究（真理の探究）とに大別されるが、これら二つの研究を車の両輪のようにバランスを取りながら、相加的・相乗的効果を発揮することが重要である。
- このため、生命現象の本質、疾患の根本的な分子基盤の解明などの基礎研究に力を入れるとともに、産学連携による実用化に向けた取組や都立病院との連携強化、更には、都の特別研究（肝硬変治療薬の開発の推進等）を進め、都民の健康や疾患治療に対するニーズに応えていく。

【（公財）東京都医学総合研究所】の課題と今後の方向性

重要課題 ②	都民の生命と健康を守る研究所を目指し、2020年度から始まる新たなプロジェクト期間に向けてどのような体制を構築していくか
検討の状況や今後の方向性	<ul style="list-style-type: none">○ 近年、患者の遺伝情報(ゲノム)をもとに最適な治療薬を選ぶ「がんゲノム医療」が臨床現場で広まりつつある。集めた遺伝情報をもとに、新たな薬や診断法の開発が期待されていることから、ゲノム解析の基盤を強化するため、新たに「ゲノム医学研究センター」を設置し、都立病院との連携等を更に強化していく。○ 長期的視点に立って都の保健医療福祉施策への貢献を強化するため、難病患者に対するケア手法の確立や認知症ケアの質の向上を図る「日本版BPSDケアプログラム」の開発などの実績を有するプロジェクトチームを再編し、新たに「社会健康医学研究センター」を設置する。○ 「がん・免疫・脳神経・精神」など、都民の重要な疾患に関する研究(応用研究)と生命科学全般の分野で革新的・創造的な研究(基礎研究)を行っている優秀な研究者を外部から公募し、新たな血を入れることにより、質の高い研究成果を都民・社会に還元する取組をさらに推進していく。